

留学生就職促進プログラム 中間評価所見

大学名：山形大学

○「留学生就職促進プログラム委員会」における所見

1. 全体の進捗状況、取組と就職率向上の見通し

○計画を超えた取組である。

国内企業等への就職状況やコンソーシアムへの参加企業数は増加傾向にあり、企業連携、コンソーシアム等の取組・プロセスが効果的に実施されている。また、企業や自治体のニーズが高い。

日本語教育への留学生の参加状況について、今後、留学生に対する積極的な働きかけが期待される。

2. プログラムの内容の進捗状況

○概ね計画通りの取組である。

外国人材の受入れ経験の少ない中小企業の状況・ニーズに合致した各種取組が行われており、県内企業の外国人材受入れへの抵抗感を少なくした点は評価できる。

キャリア教育に関して、積極的に企業と連携しており、就職活動準備のための合宿等充実した教育プログラムを提供している。今後、参加学生数の増加が期待される。ビジネス日本語について、日本語能力は試験だけでは測れない側面もあることは理解するが、外国人材を採用する企業は日本語能力を求めているため、ビジネスの現場で役に立つ教育プログラムの開発を進めることが求められる。

3. 実施体制の構築、活動状況

○概ね計画通りの取組である。

コンソーシアムに参画する機関の声をとりまとめる仕組み作りやコンソーシアムの会議対の整備を図っていることは評価できる。

全体的に留学生数や留学生比率が低いいため量的な面に関して迫りに欠ける。企業や自治体の期待に応えるためには一定程度の量的拡大が期待される。大学全体で留学生の拡大と国際化の更なる進展が期待される。

4. 他大学が参考にできる事項等

○地域のグローバル人材ニーズが高いこともあり、渡日前からの日本語教育を行い（サテライト）インターンシップの機会を企業見学などと組み合わせて量的に充実する体制を整備し、地元企業等への就職を促進する総合的な戦略は興味深い。

○自治体からの継続的な財政支援を獲得しており、そこに至るまでのノウハウを他大学に伝播できると良い。